



©2005 石塚真一小学館

島崎三歩の山岳通信 特別連載 Vol.9

信州 山のプロフェッショナル

長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則1週間ごとにお伝えしている「島崎三歩の山岳通信」。その特別連載として、季節ごとに発行する「山岳情報」に登場！

信州の山で多方面に活躍する“プロフェッショナル”の方々の声を、皆様にお届けします！（聞き手：編集部）

Vol.9 “通年営業山小屋・気象予報”のプロフェッショナル

北アルプス西穂山荘

常務取締役兼支配人 粟澤 徹 さん

<プロフィール>

1962年長野県出身。信州大学経済学部卒。信州大学理学部研究員で気象予報士の資格を持つ。フェイスブック「やさしい山のお天気教室」「人のため自然のために」を通して、山の気象や登山者の安全に関する情報と、山の魅力を配信中。山荘現地での気象解説をはじめ、全国各地で天気教室や講演活動を行っている。著書に「やさしい山のお天気教室」がある。



「肩書きがなければ登山者は話を真面目に聞いてくれない」（粟澤）

一20年以上山小屋でお仕事をされている粟澤さんが気象予報士の資格を取得しようと思立ったきっかけはどのようなものだったのでしょうか。

粟澤 山での遭難の原因は多々ありますが、厳しい気象条件

によって発生する気象遭難も主たる原因の一つです。過去に西穂高岳独標では、松本深志高校の落雷事故という、気象がもたらした大惨事が発生しています。また、私の働く西穂山荘は、北アルプスの稜線で唯一冬の間も営業している山小屋です。北アルプスでは一年の内の半分を“冬”が占めていますが、冬の気象の厳しさは格別で、冬には気象遭難の占める割合が更に増大します。このような環境下で働く者として、誰かが気象に関するより高いレベルの知識を持ち、登山者にアドバイスできれば、気象遭難を未然に防げるのではないかと考えました。しかし、いくら勉強しても肩書きがなければ登山者は話を真面目に聞いてくれないと思い、一念発起して気象予報士試験に挑戦しました。



粟澤さんにやさしく解説していただく天気教室は毎回大盛況。

一気象に関する知識は、非常に専門的で、しっかり勉強しないと理解しにくい部分もあると思います。登山者に山の天気を身近に感じてもらうために、粟澤さんがどのような取組をされているのか教えてください。

粟澤 フェイスブック『やさしい山のお天気教室』で山の天気に関する解説や、現地の気象状況等を配信しています。また、山岳関連の雑誌への寄稿や、著書の出版の他、オフシーズ

ンには全国各地で天気教室や講演会を行い、天気を学ぶことの大切さをお伝えしています。中でも直接お会いして伝えることのできる天気教室は理解を深めていただきやすく、効果が大きいことから、少しでも機会を増やしていけたらと思っています。せっかく学ぼうという気持ちがあるのに挫折してしまわないよう、なるべくやさしく解説し、楽しさを知ってもらうことが大切だと考えています。

一北アルプスでも珍しく、通年営業している山小屋の西穂山荘。そこで支配人を務め、四季を山の上で感じる粟澤さんの目から見て、春山特有の危険性はどのような点にあるのでしょうか。

粟澤 春山の最も怖いところは、気象の振りの大きさです。風もなく、Tシャツでいられるくらい暖かいこともあれば、その翌日に突如として猛吹雪に見舞われることもあります。冬山に登られる方は、雪が降っても、気温が -10°C 以下になっても問題のない装備で登ります。しかし、ゴールデンウィークの頃に登られる方は、冬に逆戻りしたときに耐えられる装備を持っていない方も多く見られます。春山で気象遭難しないためには、事前に気象情報と現地の状況をよく確認し、山行日の気象条件に適合した装備で登ることが重要です。また、気象状況の急激な悪化が予想される場合には、決して無理をしないことも鉄則です。



一山小屋の支配人という立場から、「危ないな」と感じる登山者の方はいらっしゃいましたか。

粟澤 心が浮かれ、自分をコントロールできていない人は危ないと感じます。自分の登山歴や経験を自慢したいとか、登りたくてしょうがない、といった精神状態のときには心に隙が生まれます。山では一つのミスが命に関わる事故につながることも珍しくはありませんので、心を落ち着け、真摯な気持ちで山に向かってほしいです。

「この山は一度登れたから、次は更に難しい山へ」という発想は危険」（粟澤）

一登山者が安全に山を楽しむために、ぜひアドバイスをお願いします。

粟澤 山に興味を持ち始めると、次々と色々な山に登ってみたいくなります。経験を積むのはいいことですが、自分の実力を見極め、慌てずに一步步ステップアップしていくことが、長く安全に登山を楽しむ秘訣だと思います。「この山は一度登れたから、次は更に難しい山へ」などということを繰り返していたら、いつか大変な目に遭うでしょう。一度登頂できたとしても、その日は条件に恵まれ、たまたま登ることができただけかもしれません。同じ山に登っても、事故に遭う確率が10%だった人もいれば、0.01%だった人もいます。10%だった人は、10回登れば事故に遭う計算になります。山は逃げません。着実に実力を付け、無理なく楽しく登りましょう。

一長年にわたって山の天気や講習会等を実施している粟澤さんの活動と想いをお聞きしました。天気を読むことも登山に必要な技術です。自らを守るための知識と技術を身につけて信州の山を安全に楽しみましょう！